

福電協会報

第92号



一般社団法人 福岡電業協会
2022.1

福電協会報

第92号

◀ もくじ ▶

会長挨拶……………西村 松次…………	1
祝 辞 国土交通省九州地方整備局	
局 長 藤 巻 浩 之…………	2
福岡県知事 服 部 誠太郎…………	3
福岡市長 高 島 宗一郎…………	4
施設紹介	
福岡市立総合西市民プールの紹介 ……	5
技術レポート	
耐震計算に対する電気技術者の 技術力向上への取り組み…	9
シリーズ職場訪問	
浅海電気㈱九州支店 ……………	13
シリーズ郷土……………宇 美 町…………	14
写真コンクール(第41回) ……………	16
横顔紹介と随筆……………	20
事業報告	
「技術講習会」を実施 ……………	25
「実技講習会」を開催 ……………	26
福電協ゴルフ大会(93回)(94回) …	27
委員会だより	
総務委員会……………	29
広報委員会……………	29
技術委員会……………	29
事業委員会……………	30
協会組織……………	31
会員名簿……………	32
役員名簿……………	35

表紙のことば

福岡市立総合西市民プールは、運動を通じた市民の健康づくりを目的にした施設で、老朽化にともない利用者の安全性と利便性を配慮し、令和元年12月～令和3年4月までの工期で3階建ての建設物です。

この施設は「第19回 FINA 世界マスターズ水泳選手権2022九州大会」の競技大会として使用される予定があります。

新年のご挨拶

一般社団法人 福岡電業協会

会長 西村 松次



新年、あけましておめでとうございます。

昨年は、一昨年に続き「新型コロナウイルス」の影響が大きく、延期されていました「東京オリンピック・パラリンピック」は無事開催され終わることができました。

電設業界ではJ E C Aフェアなどが中止となり、特に令和3年度日本電設工業協会の全国会員大会が熊本市にて10月開催予定で準備を進めていましたが、中止となり、非常に残念でありました。

福岡電業協会でも賀詞交歓会をはじめ各種講習会など開催中止や規模縮小になる一年でした。

今年もコロナの影響は多大であると思われますが、感染対策に配慮し、活動を継続しなければならないと考えています。現時点ではようやく鎮静化の兆しが見え、今年の当協会の活動も平常に戻ることを期待しています。

今年も建設業界では「働き方改革」「人材の確保・育成」が最大のテーマであり、令和6年4月からは建設業における時間外労働の特例が廃止され、上限規制が適用される時期が具体的に決定しており、待ったなしの状況であります。電設業界だけでなく建設業全体で取り組む必要があります。

具体的に電設業界としては、「週休二日制の推進」「適正な工期の確保」等の対策を実行し、これと合わせて「生産性向上のための新技術の導入」「外国人の受入れを通じての担い手の確保」などを推進することにより、業界の魅力発信にも努めてまいります。

特に今後は、脱炭素化、再生エネルギー活用の動

向を見据えて、様々なエネルギー活用や災害時にも期待される蓄電池やE L連携の分散型グリッドに関して電設業界の新たなビジネスのあり方を追求する「カーボンニュートラルに向けての戦略的な新技術の開発と展開」の課題にも取り組んでまいります。

コロナ禍の社会情勢を打破して、会員企業の皆様と共に、感染防止と事業の継続に尽力し、各種講習会などを開催し、技術者・技能者のレベルアップにも努めてまいります。

「夢と生きがいのある電設業界を日指して」皆様とともに頑張っていきましょう。

最後に、皆様のご繁栄とご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶と致します。



年 頭 挨 拶

国土交通省九州地方整備局

局長 藤 卷 浩 之



年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆さまには日頃より、九州地方整備局の進める国土交通行政の推進にご支援、ご協力賜り、厚く御礼申し上げます。

九州は海に囲まれ、中国の上海、韓国のソウルといった東アジアの大都市から500～1000km圏内に位置しており、概ね東アジアの中心に位置しています。そのため、アジアに向けてゲートウェイ機能を更に強化し、恵まれた地理的環境を踏まえ、今後もアジアの経済成長を九州の産業発展に取り込み日本の成長に繋げるからこそが、ウィズ・コロナ時代を見据えると、ますます重要になってきていると考えます。

九州は様々な山海の幸に恵まれた自然豊かな地域である一方で、地形・地質・気象などの自然条件から多様な災害リスクを抱えており、近年は特に気候変動の影響により、豪雨による大規模災害が毎年のように発生しています。

防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策は、社会経済システムを機能不全に陥らせるおそれのあるインフラの老朽化から、国民の生命・財産を守り、社会の重要な機能を維持することができるよう、防災・減災、国土強靱化の取組の加速化・深化を図るため、対策を講じています。災害応急対策の活動拠点となる官庁施設の自家発電設備、受変電設備改修等を推進しております。

また、今年度に閣議決定された環境対策の政府実行計画につきまして、官庁施設に関連する主な取組内容は、2030年度までに設置可能な建築物の約50%以上に太陽光発電設備を設置や既存設備を含めた政府全体のLED導入割合を2030年度までに100%とし

ています。また、今後予定する新築事業は原則ZEB Oriented相当以上、2030年度までに新築事業の平均でZEB Ready相当（※ ZEB Oriented：30～40%以上の省エネ等を図った建築物 ZEB Ready：50%以上の省エネ等を図った建築物）となることを目指しています。

また、建設分野の生産性向上については、産学官が連携しi-Construction推進のためのアクションプランを策定し、ICT施工が地域の工事まで広がるような取り組みを進めております。

さらに、九州地方整備局は、AIやUAVなどデジタル技術を活用した技術開発を行うとともに新技術を積極的に活用し様々な分野でDXを推進します。

建設産業は、平常時のみならず、地域の守り手として、災害後の復旧・復興を担う、地域にとって欠かすことのできない産業分野であり、若者が希望を持って働き続けることができる業界となることが大変重要です。

地域の建設業を維持・発展させるためには、担い手確保が何よりも重要であり、「新・担い手3法」に基づいた週休2日をはじめとする「働き方改革」や、ICT活用工事などによる「生産性向上」の取り組みを、更に推進していく所存です。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして、実り多い年になりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

年 頭 所 感

福岡県知事

服 部 誠 太 郎



新年あけましておめでとうございます。一般社団法人福岡電業協会の皆さまにおかれましては、日頃から、電気設備工事の安全施工に向け、技術力や保安意識の向上にご尽力いただき、厚くお礼を申し上げます。

長期間に及ぶコロナ禍のなか、県民・事業者の皆さまには、外出自粛や営業時間の短縮など厳しい措置にご理解とご協力をいただき、心より感謝を申し上げます。

世界では、新型コロナの収束に向け、ワクチン接種や治療薬の開発が進められています。デジタル化や脱炭素化の動きも加速しています。また、今年1月に発効のRCEP、米中対立の激化に伴う経済安全保障の動きなど、国際競争が激しさを増しています。

こうした日まぐるしく変化する社会情勢の中、成長・発展の歩みを力強く進めていきます。

まずは、コロナ危機を克服し、ワクチン・検査パッケージや第三者認証制度を活用し、社会経済活動との両立を図り、疲弊した地域経済を立て直していきます。また、世界を視野に、未来を見据えて、福岡県を発展させていくため、次の4つに重点を置いて取り組みます。

第一に、「次代を担う『人財』の育成」です。

本県の実現を担うのは「人」です。夢にチャレンジする青少年を応援するとともに、産業・経済、スポーツ、文化・芸術などさまざまな分野において活躍する人財の育成に力を入れます。中小企業や農林水産業のDXを進め、その担い手となる人財の育成にも取り組みます。

第二に、「世界から選ばれる福岡県の実現」です。

福岡空港・北九州空港の機能強化や下関北九州道路の早期実現、産業用地の造成など、将来の発展の

基盤となる社会資本の整備を着実に進めていきます。

本県の優位性を生かし、大規模データセンター誘致や先端半導体拠点の構築に向け、戦略的な企業誘致を進めます。産学官による「TEAM FUKUOKA」で連携し、国際金融機能の誘致を日指します。

第三に、「成長産業の創出」です。

未来を見据え、バイオや宇宙ビジネスなど新たな成長産業を創出していきます。

また、響灘沖の洋上風力発電の促進区域への早期指定の実現や、CO₂フリー水素の製造・拠点化に取り組み、関連産業の集積や中小企業の参入を促進するとともに、脱炭素社会の実現を目指します。

第四に、「ワンヘルスの推進」です。

「福岡県ワンヘルス推進行動計画」を策定し、ワンヘルス実践の中核拠点「ワンヘルスセンター」の整備を進めます。また、今年11月に本県で開催される「アジア獣医師会連合大会」を機に、本県のワンヘルス推進の取り組みを世界に向けて発信します。

同時に、地方創生の基本である住み慣れたところで「働く」、長く元気に「暮らす」、お子さんを安心して産み「育てる」ことができる地域社会づくりを進めます。

本県を九州のリーダー県としてふさわしい県に飛躍・発展させ、県民の皆さまが安心して笑顔で暮らせる福岡県にしていきたいと思います。

貴協会と電気設備工事に携わる皆さまにおかれましては、時代が求める新しい知識と技術の習得に努められ、地域の皆さまへの安全・安心を引き続き提供していただきますようお願いいたします。

新年が皆さまにとって、素晴らしい一年となるよう心からお祈りいたします。

年 頭 挨拶

福岡市長

高 島 宗一郎



新年、あけましておめでとうございます。

一般社団法人福岡電業協会の皆様におかれましては、日頃より福岡市行政の推進にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

2021年は、新型コロナウイルスの影響が続く一年となりましたが、会員の皆様には、感染症拡大防止への継続的な取り組みに努めていただき改めて感謝を申し上げます。

今後もコロナの状況には注視が必要ですが、不確実な世の中だからこそ、この状況をチャンスに変える強さと、変化を恐れないしなやかさを持つことが大切になります。市民や事業者の皆様がポジティブなマインドを持てる、そんな2022年になるよう、福岡市も新たなチャレンジを行っていきます。

まずは、5月に世界水泳選手権がいよいよ福岡で開催されます。日本や世界が未来に踏み出すきっかけとなるよう、全力で大会を成功へと導きます。また、2023年に開催されるG7サミットの誘致にも名乗りを上げました。

街づくりに関しては、エリアごとに個性がある福岡市の特徴をいかし、コントラストのあるまちづくりを進めます。都心部では、天神ビッグバン、博多コネクティッドにより、今後、ビルの建替えが目に見える形で一気に進みます。そこに高付加価値な企業が入居し、新たな雇用やビジネスが生まれることで、福岡市は優秀な人材や若者が自己実現でき、

夢を叶えることのできる街になっていきます。

また、博多部の歴史・伝統・文化を際立たせる「博多旧市街プロジェクト」、市民の憩いの場となる「セントラルパーク構想」、身近な自然の魅力を高める「Fukuoka East & West Coastプロジェクト」や「油山市民の森・油山牧場リニューアル」など、数々のプロジェクトが進行中です。

一方、少子高齢化は、日本のみならず世界が直面する大きな課題です。テクノロジーを活用し、誰も取り残さない、新しい社会のあり方を示していく必要があります。福岡市ではDXを推進し、2022年度末には、行政手続きのオンライン率を90%以上に引き上げます。また、九州大学箱崎キャンパス跡地では、未来に誇れるモデル都市実現を目指す「Fukuoka Smart EAST」を進めます。

世界では、ウェルビーイング、ダイバーシティ、脱炭素といった「人」や「環境」にフォーカスした、経済的な価値以外の要素が意思決定の重要な判断基準となり、あらゆる分野にて、人や組織の行動変容が起こっています。福岡市は、これまでも「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」の実現に向けて取り組んできましたが、今後も世界から尊敬され、選ばれる都市であり続けるため、「人」、「環境」、「都市活力」、それぞれの要素をさらに高い次元で調和させていきたいと考えています。

最後に、皆様の今年一年のご健勝とご活躍を心から祈念し、新年のあいさつとさせていただきます。